

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成26年7月17日 (2014.7.17)

【公表番号】特表2013-536157(P2013-536157A)

【公表日】平成25年9月19日 (2013.9.19)

【年通号数】公開・登録公報2013-051

【出願番号】特願2013-512926(P2013-512926)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

C 0 7 K 14/82 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/39 (2006.01)

A 6 1 K 31/675 (2006.01)

A 6 1 K 31/44 (2006.01)

A 6 1 K 31/404 (2006.01)

A 6 1 K 38/21 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

G 0 1 N 33/68 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 37/02 Z N A

C 0 7 K 14/82

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 K 39/39

A 6 1 K 31/675

A 6 1 K 31/44

A 6 1 K 31/404

A 6 1 K 37/66 G

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 P 43/00 1 2 1

G 0 1 N 33/68

【手続補正書】

【提出日】平成26年5月27日 (2014.5.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配列番号 4、配列番号 1 ~ 3、および配列番号 5 ~ 18 から選択されるいずれか 1 つの
 アミノ酸配列からなるペプチドを含むがん治療剤、又は
 配列番号 4、配列番号 1 ~ 3、および配列番号 5 ~ 18 から選択されるアミノ酸配列から
 なるペプチドの組み合わせを含むがん治療剤。

【請求項 2】

ペプチドは配列番号 4、1、および 18 から選択される アミノ酸配列からなるペプチド である、請求項 1 に記載の がん治療剤。

【請求項 3】

がんは、肺癌、頭頸部癌、乳癌、膵臓癌、前立腺癌、腎臓癌、食道癌、骨癌、睾丸癌、子宮頸癌、消化器癌、膠芽細胞腫、白血病、リンパ腫、マントル細胞リンパ腫、肺の前がん病変、大腸癌、メラノーマ、膀胱癌、およびその他のがん疾病から選択される、請求項 1 又は 2 に記載の がん治療剤。

【請求項 4】

抗がんワクチンの形態、又は GM-CSF を含む アジュバント を 1 つ以上含む 抗がんワクチン の形態で投与される、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の がん治療剤。

【請求項 5】

配列番号 19 ~ 26 から選択される いずれか 1 つのアミノ酸配列からなるペプチドを含む、サイクリン D1 に由来しない 腫瘍関連ペプチド を 1 つ以上 さらに含む、請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の がん治療剤。

【請求項 6】

腫瘍関連ペプチドは、配列番号 4、配列番号 1 ~ 3、および配列番号 5 ~ 18 から選択されるいずれか 1 つのアミノ酸配列からなるペプチドとは異なる HLA-分子への結合能力を持つものから 選択される、請求項 5 の がん治療剤。

【請求項 7】

毎月、毎週、または 1 週間に 2 回、繰り返し投与される、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の がん治療剤。

【請求項 8】

CD4+ CD25+ 制御性 T 細胞を含む免疫調節細胞集団を不活性化および / または排除する薬剤、又はシクロホスファミドを含む 化学療法剤 を 1 つ以上含む、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載の がん治療剤。

【請求項 9】

化学療法剤は ペプチドの投与前に単回投与されるものである、又は、シクロホスファミドは投与量 300 mg/m² でペプチドの投与前に単回注入されるものである、請求項 8 の がん治療剤。

【請求項 10】

スニチニブもしくは ソラフェニブを含む TKI 療法、または、インターフェロンもしくはインターロイキンを含むサイトカイン療法 の後に投与される、請求項 1 ~ 9 のいずれかに記載の がん治療剤。

【請求項 11】

サイトカイン療法の後、シクロホスファミドが単回投与され、その後 1 週間ほぼ毎日初回刺激のためワクチンが投与され、およびその後 6 ヶ月間以上 2 週間毎にワクチンが投与される、ワクチンとして使用する 請求項 1 ~ 10 のいずれかに記載の がん治療剤。

【請求項 12】

抗原特異的方法で 細胞傷害性 T リンパ球 (CTL) を活性化するのに十分な期間、適切な抗原提示細胞表面で発現する ヒト MHC クラス I または II MHC 分子上に負荷されたペプチドと CTL とを接触させることを含む、活性化 CTL を in vitro で生成するための、配列番号 4、配列番号 1 ~ 3、および配列番号 5 ~ 26 から選択されるいずれか 1 つのアミノ酸配列からなるペプチドの使用。

【請求項 13】

患者の免疫系の活性化または調節を検出および / またはモニターするための 診断を補助する手段としての、配列番号 4、配列番号 1 ~ 3、および配列番号 5 ~ 26 から選択されるいずれか 1 つのアミノ酸配列からなるペプチドの使用。

【請求項 14】

がんの診断における 診断を補助する手段としての、配列番号 4、配列番号 1 ~ 3、およ

び配列番号 5 ～ 26 から選択されるいずれか 1 つのアミノ酸配列からなるペプチドの使用
。

【請求項 15】

配列番号 5 または 6 に示されるアミノ酸配列からなる腫瘍関連ペプチド。